

令和 7 年度 第 3 回 産業振興会議 会議録要旨

日 時	令和 7 年 11 月 21 日（金） 13:00～15:00
場 所	宇治市産業会館 多目的ホール
出席委員	白須会長 岸田委員 斉藤委員 徳永委員 南村委員 本永委員 吉田委員
議事要旨	<p>1 開会</p> <p>2 第 3 回宇治市産業振興会議の目的</p> <p>3 議 事</p> <p>（１）宇治市産業戦略 第 2 改訂版（初案）について</p> <p>（２）その他</p> <p>4 閉会</p> <p>議事（１）宇治市産業戦略 第 2 改訂版（初案）について 事務局から宇治市産業戦略 第 2 改訂版（初案）について説明</p> <p><u>委員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 労働力人口の推移について量的な情報だけでなく、業種別・年齢階層別の構成など質的な情報も示すことで、脆弱性や施策の方向性がより明確になると考える。 ● 外国人人材について、「適切な」という表現の意図が不明瞭であると指摘。技能実習生だけでなく、工科大学出身の高度な技能を持つ外国人エンジニアの活用が進んでいる事例を挙げ、より前向きな外国人材活用の姿勢を表現した方がよい。 <p><u>事務局</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 業種別の年齢構成について、付随データの有無を確認し、分析可能かどうかを含め検討したい。 ➤ 外国人人材については、企業の状況はさまざまだが、労働力減少を踏まえ技術系外国人材の登用も重要と認識しており、表現の文言調整を検討する。 <p><u>委員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 成果と課題のうち、課題の書き方について表現面のみの指摘。行政の文書は立場上、「こういうことが不十分であった」や「これができていない」といったネガティブな書き方が難しいが、「必要です」という表現が続くと、実際の課題感が伝わりにくいとを感じる。ここはまだ伸ばす必要があると認識しているといったことが伝わる表現があると、その後に続く施策とのつながりがより明確になる。書きにくい部分もあるとは理解するが、表現の工夫を。

事務局

- 具体的な取組の内容につなげるためにも、実情をより示す書き方の検討が必要との指摘を踏まえ、可能な範囲で表現の見直しを検討したい。

委員

- 4章の「具体的な取組」は“何をするのか”を明確に示す部分であるため、表現が曖昧な箇所（例：商店街と身近にすることで活性化を支援 等）は、助成や出展支援のように具体度をそろえた方がよい。
- 「新たな工業用地の確保」について、8～11年度がすべて「検討」とのみ書かれており、いつ方針を決定するのかがわからない。企業側が将来の拡張計画を立てにくいため、可能であれば具体的な時期の明らかにした方がよい。
- 全体的な所で事業数が多いことから、今回の4年間で重点的に取り組む事項を（第3章などで）明記すると、今回の戦略期間でやることが明確になるのではないか。

事務局

- 取組内容の記載（曖昧な表現が散見される点）については見直しを行い、可能な範囲で具体化を検討する。
- 工業用地については、24号沿道は既に動き出しており、榎島・白川・24号の3か所を産業誘致の拠点と位置づけている。今後の4年間のうちに、榎島か白川のどちらかを次の候補地として決定する方針であり、インフラ状況や企業ニーズを踏まえ判断する意向。決定後すぐ整備できるわけではないが、まず方針決定を進めていきたい。
- 次期計画の重点事項としては、事業者の人材確保が非常に重要と認識しており、（今回の4年間で重点的に取り組む事項としての）文言については検討したい。

委員

- 市内産業の成長支援における低利融資制度について、従前は継続施策だったが資料では拡充となっている点について、具体的な（拡充の）検討は。

事務局

- 低利融資制度の拡充内容は現時点で具体的に決まっていない。制度は2市1町で足並みを揃えて運用しているため、他市町と調整しながら拡充可能な部分を検討していく。

委員

- 京都府の農業関連会議で、農用地の確保や遊休農地の活用について議論されていることを紹介。国や府が農振農用地を増やす方針を示す一方で、市町村は工業用地として農用地を変更できる。農用地転用による雇用増加などの具体的な数値が示されると理解しやすい。
- 榎島地域・白川地域の工業用地検討について、四年以内と回答があったが、いつまでにするのか、またどの部署が具体的に担当するのかを知らせて欲しい。

事務局

- 新たな工業用地の決定は産業部門・農業部門・都市整備部門で調整しながら進めている。農業生産性を維持できる形で農業と連動した対応を検討していく。
- 農地の減少・増加の意向をマッチングさせ、宇治市では（農地面積の）現状維持を目標に地域計画を策定したところ。
- 農業振興に関する取り組みについて、より具体的に記述できる部分は検討する。

委員

- 「地域全体で行う商店街等の活性化」について、前回会議において商店街を観光地として人を呼ぶのか、それとも地域密着型で生活の場としてできることをやっていくのかということの話になったときに、生活の場としての回答があった。子どもの減少や高齢化の中、生活の場としての活性化のイメージが持ちにくい。
- 「産学交流の推進」について、中学生が企業と一緒に商品を作りそれらの行方を最後まで追う、また高校生が英語で外国人客に対応するなど、公立の中学・高校でも探究等の授業の中で経験できるようにしてはどうか。

事務局

- 商店街活性化は地域密着型が基本だが、中宇治の商店街は観光重視、表参道商店街は観光特化、宇治橋通り商店街は地域と観光の両方を取り込む方針で進めている。
- 具体的な商店街活性化の取り組みとして、子育て世帯をターゲットにした施策を木幡・六地藏地域で実施中。地域の関係機関や学校・保育園などと連携し、地域全体を活性化させつつ商店街に人を呼び込む取り組みを一つのモデルケースとして進めている。

	<div data-bbox="399 112 1450 331"><p>➤ これまで、小学生を中心とした層に、ものづくり体験やオープンファクトリーを実施。中学生以上への取組として、今年は槇島中学校で実施した職場体験に市内の槇島地域の製造業者を紹介。今後も中学生・高校生への体験機会を広げていきたい。</p></div> <div data-bbox="399 331 1450 1317"><p><u>委員</u></p><ul style="list-style-type: none">● 人材不足への対応で記載されている SNS の活用は素晴らしいと思うが、高齢化が進む中、高齢者については SNS を使いこなせないことが多い。また、鉄工所の廃業時の高齢者の再就職では、技術が活かせる仕事ではなく、別の仕事に就くことになった。高齢者は働ければどこでも良いという考えが多いが、技術を持つ高齢者が適切な仕事に就けるような案内や仕組みがあれば良いと思う。● 採用が困難な中、今いる人材に長く働いてもらいたい。そのため人材育成・定着のために、研修やセミナー情報を活用したいが、どのような（事業者向けの）案内をされているのか。<p><u>事務局</u></p><p>➤ 高齢者が持っている技術を活かした再就職等の仕組みについて、行政として検討をしていかなければならないと感じている。</p><p>➤ 人手不足を補うため、現有の従業員を定着させ、スキルアップを促進することが重要。セミナーや支援を通じて、今後さらに人材定着に向けた取り組みを強化していきたい。人材定着のためのセミナーは SNS 等を活用して情報発信しているが、企業への情報伝達が不足している。企業に届きやすい発信を考えていく。</p></div> <div data-bbox="399 1317 1450 2033"><p><u>委員</u></p><ul style="list-style-type: none">● 宇治市産業戦略 第2改訂版とあるが、“宇治市”部分を隠しても通じることが結構書かれており、どこでも通用する感じに見えるのが気になる。商店街活性化や小中学校の企業交流について、具体的な名称や修飾語（例：○○商店街、中小企業家同友会宇治支部）を入れると宇治市独自の取り組みが伝わりやすくなる。ものづくりオープンファクトリーなども、関係団体（例：お茶の京都 DMO）を明示すると分かりやすい。● どこまで書けるか4年間でできるか分からないが、外国人材活用支援については、例えば宇治 NEXT が外国人材の管理団体機能を目指してとか、文教大学との連携による支援については具体的な制度名や連携内容（例：（仮称）産業心理士制度）を記載するとより明確に（読み手が）イメージできる。● 先ほどの（高齢者の技術を活用した）人材のマッチングに関しては、適材適所という表現を入れると理解しやすい。</div>
--	--

	<p><u>事務局</u></p> <p>➤ 具体的な団体名や地域名称の記載については、相手方との調整も必要な事業もあり、書けるかどうかをという課題がある。ただし、現状の表現では曖昧すぎる部分もあるため、委員の意見を踏まえつつ、書ける範囲で具体性を持たせる方向で調整していく。</p>
	<p><u>委員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 外国人材活用に関して、セミナーや制度の活用が多く言及されているが、宇治市の企業がどのような人材を迎え入れるかによって対策は変わるところではある。外国人材受け入れのためには、環境整備（住宅や言葉の問題など）も重要であり、これらを含めることで厚みが出る。 ● 多様性の観点から、若手だけでなく高齢者や女性の活用を含めた取り組みが必要である。特に高齢者の労働力活用については労働人口に大きな影響を与えるため、考えていく必要がある。
	<p><u>委員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「宇治茶ブランドの向上」について、宇治茶ブランドはすでに確立されているが、今後どのようにブランドを維持・強化していくかが重要。抹茶ブームにより、他地域（静岡、鹿児島）や海外からの競争が激化している。今後の4年間は宇治茶ブランドを守るために戦略的な取り組みが必要で品質の維持はもちろん、歴史や技術的背景を海外に向けてしっかり伝える努力が重要。そのため、ブランド強化のための戦略的なアプローチが求められる。 <p><u>事務局</u></p> <p>➤ 抹茶の需要が世界的に高まっており、他国の生産も増えている中で、どうやって生き残っていくのかということが非常に重要な4年間であるという指摘はその通りと考えている。</p> <p>➤ 宇治市内産の茶の生産量は少ないが、高品質を保ち続けることが最も大事であり、そのうえで、我々も販売戦略をしっかりとまとめていかなければと認識している。</p>
	<p><u>委員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「起業ニーズの掘り起しと起業家への支援」において起業・第二創業に係る経費の補助とは、創業支援補助金制度が該当すると思うが、今年は女性起業家の割合が例年の約4割から8割近くに増加している。 ● 子育て世代が家庭と仕事を両立するために起業を選択し、さらに子育て世代をターゲットにしたビジネスモデルを考えるケースが見られる。現行の創業支援補助金は限度額180万円で、基礎部分100万円に加算部分として、市外から宇治市に移住して起業する人、若者起業家、新たに雇用を生む事業者、

空き家を活用して起業する人の 4 項目に 10～30 万円の加算がある。提案として、子育て世代の起業者を加算対象に含めることを検討してはどうか。

- 宇治市子育て応援環境整備事業とつなげたり、採択された事業者を「子育て世代応援事業者」としての認定や、市の広報に掲載したりするなどの PR も考えられる。

事務局

- 子育て世代の起業希望者が増えている状況を認識している。
- 創業支援補助金への加算対象拡大については、内部調整が必要であり、具体的な支援方法の実施可能性について検討する。既存の事業の取り組みもうまく活用しながら、より起業しやすい環境づくりには努めてまいりたい。

委員

- 現在、抹茶ブームが非常に盛り上がっており、近くの間屋では 90%以上が外国人による購入となっている。抹茶の生産は宇治だけでなく、和束や南山城も多く生産しており、かつて煎茶の産地だったこれらの地域も今や碾茶（抹茶用）の産地となっている。農林水産省でも抹茶への転換を促進している。煎茶や玉露の文化が廃れる可能性が懸念される。
- 宇治茶は全国生産量の 3%に過ぎないが、ブランド力が強く、全国的に「宇治茶」が有名である理由を考える必要がある。宇治茶の発展には、生産者と商売人の協力が不可欠であり、行政の支援が続くことが重要である。

事務局

- 宇治市は玉露の発祥地であり、煎茶や玉露を含む宇治茶の文化を守ることが大切であり、その取り組みをしっかりと行っていく。宇治茶を守っていくため、根幹な部分である品質の高い茶の生産を支援し続ける必要があると認識している。

委員

- こども未来キャンパスについて、規模を拡大し、有料でも構わないので内容をより深めた体験型プログラムにすることを提案。各企業の YouTube 動画を子どもに制作させ、それを宣伝に活用するなど、より実際に近い形での体験学習でしては。現在は無料で運営されているため限界があるが、有料化も検討の余地があると考える。

事務局

- こども未来キャンパスは現在参加者に対しては無料で実施しており、事業者によるパッケージ化プログラムとして提供されている。プログラムをさらに拡充することは、事業者との協議の結果、現時点では難しい。

	<p>一方、今年は別事業として「農作物ハンター」で笠取地域に焦点を当て、生産から販売までの体験を提供した。有料化の提案は今後の事業検討の参考として念頭に置き、より良い事業づくりを進めたいと考えている。</p>
	<p><u>委員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● こども未来キャンパスは非常に人気があり、今後の拡大やプログラムのクール数を増やすことを提案。子どものため、会社のため、宇治のためになる。所属団体でも協力したい。 ● 宇治橋通り商店街の（各店舗の営業時間による）夜間の暗さが気になる。営業時間の延長には雇用の問題が、また治安の問題も出てくるかもしれないが、営業時間の拡大に対して補助金で支援すれば活性化につながるのでは。 <p><u>事務局</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 商店街の営業時間について、事業者聞いたところ、開けていても客足が少ないため閉店時間を早めている店舗が多い。ただし、事前予約や相談に応じて営業時間を延長する対応をしている店舗もある。 ➤ 夜間のにぎわいは観光面でも重要であり、地域振興にもつながると思うため、営業時間延長に向けた支援方法を検討していきたい。
	<p><u>委員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「市内産業の情報発信」の項目について、「①魅力的な市内事業者情報の発信」内に記載している事業がほとんど再掲である。「②宇治ブランドの向上」を前にしてはどうか。 <p><u>事務局</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ ご意見を受けて、記載順序について調整する。
	<p><u>白須会長</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 委員の意図をできる限り捉えつつ、対応可能な範囲で修正を行うように。
	<p>事務局から全体を通しての補足説明</p> <p>第5章と参考資料を含めて初案とすることを説明</p>